



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **2001352584 A**(43) Date of publication of application: **21.12.01**

(51) Int. Cl.

H04Q 7/38
G06F 12/00
G06F 12/14
G06F 12/16
H04M 1/00
H04M 1/725
H04M 11/00

(21) Application number: **2000172087**(22) Date of filing: **08.06.00**(71) Applicant: **SEIKO EPSON CORP**

(72) Inventor: **TANAKA YOICHI**
HAMADA YOSHINORI

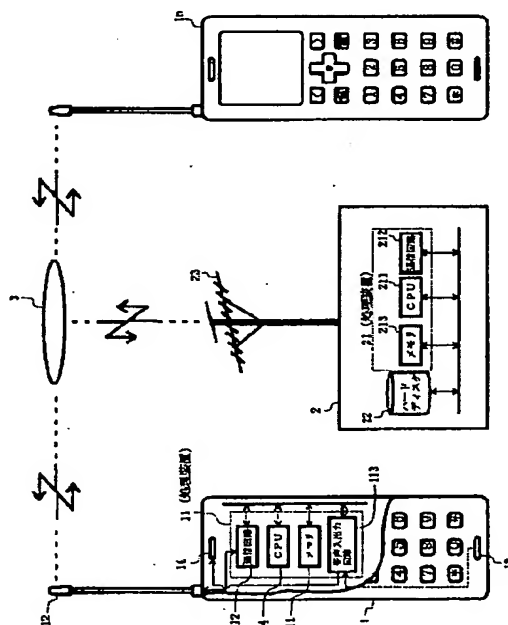
**(54) PORTABLE TELEPHONE SET AND CALL
 INFORMATION BACKUP SYSTEM**

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To surely back up user information registered in a memory built in a portable telephone set even when a user neglects the backup.

SOLUTION: In the portable telephone set 1 provided with a function for automatically uploading information, which is written in the user area of a built-in memory 111 between the system area and the user area thereof, to a service station, an incorporated processor 11 monitors the write/erase history of information in the user area by means of a history monitoring means and when the relevant monitored result agrees with preset transfer start conditions, the processor performs the uploading.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-352584

(P2001-352584A)

(43) 公開日 平成13年12月21日 (2001. 12. 21)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード (参考)
H 0 4 Q 7/38		G 0 6 F 12/00	5 3 1 M 5 B 0 1 7
G 0 6 F 12/00	5 3 1	12/14	3 2 0 C 5 B 0 1 8
12/14	3 2 0	12/16	3 1 0 M 5 B 0 8 2
12/16	3 1 0	H 0 4 M 1/00	Z 5 K 0 2 7
H 0 4 M 1/00		1/725	5 K 0 6 7

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 8 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2000-172087 (P2000-172087)

(22) 出願日 平成12年6月8日 (2000. 6. 8)

(71) 出願人 000002369

セイコーエプソン株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目4番1号

(72) 発明者 田中 洋一

長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内

(72) 発明者 濱田 義典

長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーエプソン株式会社内

(74) 代理人 100095728

弁理士 上柳 雅登 (外1名)

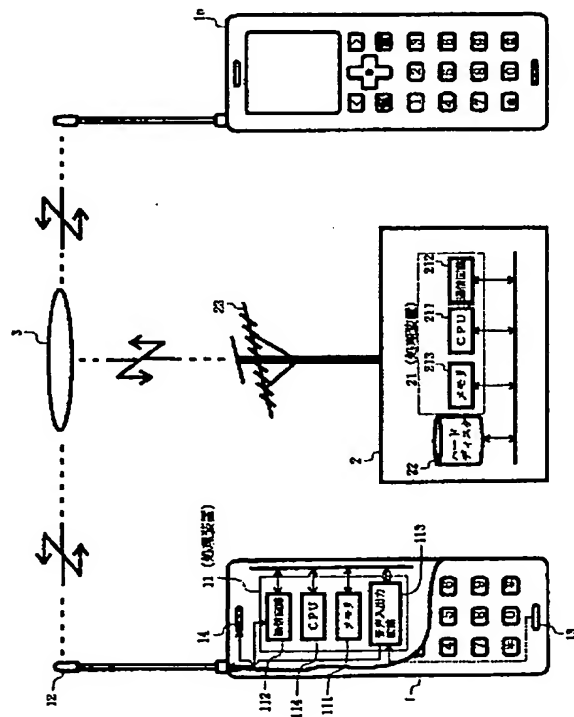
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 携帯型電話機および通話情報バックアップシステム

(57) 【要約】

【課題】 携帯型電話機に内蔵したメモリに登録されているユーザ情報のバックアップを、ユーザが懈怠したとしても、確実に実行できるようにする。

【解決手段】 内蔵メモリ111のシステム領域とユーザ領域のうち、ユーザ領域に書き込まれた情報をサービス局へ自動アップロードする機能を備えた携帯型電話機1であって、内蔵処理装置11は、ユーザ領域への情報の書き込み・消去履歴を履歴監視手段により監視し、当該監視結果が予め設定された転送開始条件に一致するに至ったときに前記アップロードを行う。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 内蔵メモリのシステム領域とユーザ領域のうち、ユーザ領域に書き込まれた情報をサービス局へ自動アップロードする機能を備えた携帯型電話機であって、

内蔵処理装置は、前記ユーザ領域への情報の書き込み・消去履歴を履歴監視手段により監視し、当該監視結果が予め設定された転送開始条件に一致するに至ったときに前記アップロードを行う、ことを特徴とする携帯型電話機。

【請求項2】 前記書き込み・消去履歴が、通話および／またはメール送受信についての履歴であることを特徴とする請求項1に記載の携帯型電話機。

【請求項3】 前記内蔵処理装置は、前記サービス局への転送を行ったときは、前記履歴監視手段をリセットすることを特徴とする請求項1または2に記載の携帯型電話機。

【請求項4】 前記書き込み・消去履歴が、前記ユーザ領域への情報の書き込み・消去回数であり、前記履歴監視手段は当該回数を監視することを特徴とする請求項1～3の何れかに記載の携帯型電話機。

【請求項5】 前記書き込み・消去履歴が、前記ユーザ領域への情報の書き込み・消去情報内容の変化を示す係数であり、前記履歴監視手段は当該係数を監視することを特徴とする請求項1～3の何れかに記載の携帯型電話機。

【請求項6】 前記書き込み・消去履歴が、前記ユーザ領域への情報の書き込み・消去情報量の変化を示す係数であり、前記履歴監視手段は当該係数を監視することを特徴とする請求項1～3の何れかに記載の携帯型電話機。

【請求項7】 前記履歴監視手段は、カウンタを含んで構成されることを特徴とする請求項4～6の何れかに記載の携帯型電話機。

【請求項8】 前記転送開始条件は、ユーザにより、設定または変更がなされることを特徴とする請求項1～7の何れかに記載の携帯型電話機。

【請求項9】 前記内蔵処理装置は、ユーザからの要求があったときは、前記サービス局にアップロードした情報をダウンロードすることを特徴とする請求項1～8の何れかに記載の携帯型電話機。

【請求項10】 請求項7に記載の携帯型電話機とサービス局とからなる、携帯型電話機の通話情報バックアップシステムであって、前記サービス局は、前記携帯型電話機の前記内蔵処理装置から、アップロードされた情報のダウンロード要求を受けたときは、ダウンロードをパスワード照合により許可することを特徴とする通話情報バックアップシステム。

【請求項11】 前記サービス局に前記情報をアップロードした携帯型電話機と、前記サービス局から前記情報をダウンロードした携帯型電話機とが、異なることを特

徴とする通話情報バックアップシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、メモリに書き込まれたユーザ情報をサービス局へ自動的にバックアップする機能を備えた携帯型電話機、および通話情報バックアップシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】最近、電話番号、住所録、電子メールアドレス等の各種情報（以下、「ユーザ情報」という）を、内蔵されたメモリに登録が可能な携帯型電話機が市場に広く普及している。当該携帯型電話機の普及とともに、ユーザにより前記メモリに登録されたユーザ情報をバックアップする技術が提供されてきている。

【0003】携帯型電話機のユーザの多くは、ユーザ情報の控えを手帳やメモ帳等に記録していないので、携帯型電話機の突発的な故障等が生じると、それに伴い、ユーザはユーザ情報を失ってしまう。例えば、携帯型電話機の多くは防水処理がなされていない。そのため、ユーザが、あやまって携帯型電話機を水中に落下させた場合、当該携帯型電話機の本体内部に水滴が浸水し、前記携帯型電話機の内部の回路が短絡してしまうことがある。このような場合、前記携帯型電話機が修理されない限り、ユーザが前記ユーザ情報を再び取得することは極めて困難である。

【0004】上記のような場合に備えて、ユーザが前記各種情報を確実に回復し得るように、前記ユーザ情報をバックアップしておくことが望ましい。

【0005】従来のバックアップ技術として、携帯型電話機、通信網、およびサービス局から構成されるバックアップシステムがある。前記携帯型電話機および前記サービス局は、前記通信網を介して相互に前記各種情報のデータの送受信を行うことができる。ユーザが前記携帯型電話機からユーザ情報のバックアップを行うための操作を行うと、携帯型電話機はユーザ情報のデータを、通信網を介してサービス局の備える記憶装置に転送する。また、ユーザは必要に応じて、前記サービス局が備える記憶装置に格納されたユーザ情報のデータを、携帯型電話機のメモリに転送することができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】ところで、前述したバックアップ技術においては、ユーザ情報のバックアップが行われる機会はユーザの判断に委ねられる。通常、ユーザは前記各種情報の前記携帯型電話機のメモリへの登録を行う度に、ユーザ情報のバックアップを行うことは少なく、ユーザごとに異なる判断のもとにユーザ情報のバックアップを行う。例えば、あるユーザは未バックアップ分のユーザ情報の登録件数が所定の件数になった場合に、ユーザ情報のバックアップを行い、またあるユーザは一定の期間毎にユーザ情報のバックアップを行う、

という場合が考えられる。

【0007】上記のように、従来のバックアップ技術においては、ユーザ情報のバックアップは、ユーザによる自発的な行為と言える。そのため、ユーザによるユーザ情報のバックアップの懈怠が生じると、携帯型電話機の故障や紛失などの際に、未バックアップ分のユーザ情報を失ってしまうという問題がある。

【0008】本発明の目的は、携帯型電話機に内蔵したメモリに登録されているユーザ情報のバックアップを、ユーザが懈怠したとしても、確実に実行できるようにすることにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】本発明の携帯型電話機は、内蔵メモリのシステム領域とユーザ領域のうち、ユーザ領域に書き込まれた情報をサービス局へ自動アップロードする機能を備えている。ここで、携帯型電話機とは、例えば日本国における、いわゆる携帯電話、PHS等のモバイルテレホンが含まれることはもちろん、ノートブックパソコンやハンドヘルド・コンピュータに内蔵される電話機能を内蔵した、カード型データ通信機器を含む。

【0010】本発明の携帯型電話機の特徴は、内蔵処理装置（CPU等）がユーザ領域への情報の書き込み・消去履歴を履歴監視手段により監視し、当該監視結果が予め設定された転送開始条件に一致するに至ったときにサービス局への転送を行うことにある。

【0011】ここで、書き込み・消去履歴は、例えば、通話および／またはメール送受信についての履歴である。内蔵処理装置は、サービス局への転送を行ったときは、通常履歴監視手段のリセットを行う。履歴監視手段は、書き込み・消去履歴の監視においては、例えばユーザ領域への情報の書き込み・消去回数、書き込み・消去情報内容の変化を示す係数、書き込み・消去情報量の変化を示す係数の何れかの監視を行う。あるいは、履歴監視手段が、それぞれの組み合わせの係数を監視するようにすることもできる。また、履歴監視手段は、カウンタを含んで構成してもよい。カウンタには、例えばカウンタ専用ICを用いてもよい。さらに、転送開始条件は、ユーザが設定または変更することができる。加えて、内蔵処理装置は、ユーザからのダウンロード要求があったときは、サービス局にアップロードした情報のダウンロードを行うことができる。

【0012】例えば、ユーザは、操作ボタンを操作することで上記のダウンロードの要求を行うこともできる。また、携帯電話機が、マイクを通じて入力されるユーザの発声を識別し、識別された音声に予め割り当てられたコマンドを実行する機能（ボイスコマンド機能）を有する場合には、ユーザは、ボイスコマンド機能を用いて、上記のダウンロードの要求を行うこともできる。

【0013】本発明の通話情報バックアップシステム

は、携帯型電話機とサービス局とからなるもので、サービス局は、アップロードされた情報のダウンロード要求を受けたときは、ダウンロードをパスワード照合により許可することを特徴とする。また、サービス局に情報をアップロードした携帯型電話機と、サービス局から前記情報をダウンロードした携帯型電話機とが異なることをも特徴とする。

【0014】例えば、2人が同一のパスワードを使用することにより、一方がサービス局にアップロードしたユーザ情報を、他方がダウンロードするようにできる。すなわち、一方が携帯電話に登録した住所録やメールアドレス等を、他方の携帯電話に転送することができる。

【0015】

【発明の実施の形態】図1は本発明の携帯型電話機および通話情報バックアップシステムの実施形態を示す説明図である。図1においては、携帯型電話機1とサービス局2とで通信網3を介し相互にデータ通信が行われている様子が示されている。

【0016】図1において、携帯型電話機1は、処理装置11、アンテナ12、マイク13、スピーカ14を含んで構成されている。また、処理装置11は、メモリ111、通信回路112、音声入出力回路113、CPU114を含んで構成されている。

【0017】図2は、メモリ111に格納された情報を示す説明図である。メモリ111の記憶領域は、システム領域S__AREAとユーザ領域U__AREAとに分割されている。システム領域S__AREAには、通話や電子メールの送受信、電話帳の登録等の各種機能を実行するための各種プログラムや各種のデータが格納されている。ユーザ領域U__AREAには、電話帳データ、メールアドレスデータ、メモデータ、通話履歴データ等の各種データ（以下、「ユーザデータUSR__DAT」という）が格納されている。

【0018】図1において、通信回路112は、音声入出力回路113が出力する音声データやCPU114から渡されるデータの所定の信号への変換、および当該信号のアンテナ12からの送信を行うことができる。また、通信回路112は、アンテナ12が受信した信号の所定のデータへの変換、および当該データの音声入出力回路113やCPU114への出力を行うことができる。

【0019】音声入出力回路113は、アンテナ12で受信され、通信回路112を介して入力された音声データや、メモリ111に格納された通話呼び出し音データ等の音声データの音声信号への変換、および当該音声信号のスピーカ14への出力を行うことができる。また、音声入出力回路113は、マイク13を介して入力した音声信号の音声データへの変換、および当該音声データの通信回路112やCPU114への出力を行うことができる。

【0020】CPU114は、メモリ111のシステム領域S__AREAに格納された各種プログラムを実行することができる。

【0021】本発明の通話情報バックアップシステムでは、図1の携帯型電話機1、1台または複数台の携帯型電話機1n、サービス局2、および通信網3を含んで構成されている。なお、携帯型電話機1nは、携帯型電話機1と同構成をなしている。また、サービス局2は、処理装置21、ハードディスク22、アンテナ23を含んで構成されている。さらに、処理装置21は、CPU211、通信回路212、メモリ213を含んで構成されている。通信網3は、有線ネットワークである公衆電話回線網、及び無線ネットワークで構成されている。

【0022】CPU211は、ハードディスク22に格納された各種プログラムを実行することができる。

【0023】通信回路212は、CPU211から渡されるデータの所定の信号への変換、および当該信号のアンテナ23からの送信を行うことができる。また、通信回路212は、アンテナ23が受信した信号の所定のデータへの変換、および当該データのCPU211への出力を行うことができる。

【0024】ハードディスク22には、CPU211によって実行される各種プログラムが格納されているほか、後述するバックアップデータBU__DATが格納される。

【0025】以下、本実施例における携帯型電話機1の動作例を説明する。図3は携帯型電話機1に内蔵された処理装置11が、ユーザデータUSR__DATのサービス局への転送（以下、「アップロード」という）を行う際の動作を説明するための機能ブロックである。

【0026】処理装置11は、通話終了後に、通話履歴データTC__HISのメモリ111のユーザ領域U__AREAへの書込み・消去を行う（f__1）。通話履歴データTC__HISは通話の発着信において、メモリ111のシステム領域S__AREAに格納される相手先電話番号、相手先氏名、発着信日時等のデータを基に、CPU114によって生成される。生成された通話履歴データTC__HISは、CPU114によってメモリ111のユーザ領域U__AREAに格納される。通話履歴データTC__HISのメモリ111のユーザ領域U__AREAへの格納可能数は予めユーザにより設定され、それを超える場合CPU114は、格納済みの通話履歴データの内で最も過去のものを消去し、その消去済み領域に最新の通話履歴データを書き込む。

【0027】また、処理装置11はメール送受信後に、メール送受信履歴データML__HISのメモリ111のユーザ領域U__AREAへの書込み・消去を行う（f__2）。メール送受信履歴データML__HISは、メールの送受信において、メモリ111のシステム領域S__AREAに格納される相手先メールアドレス、メール件

名、メール送受信日時等のデータを基に、CPU114によって生成される。メール送受信履歴データML__HISのメモリ111のユーザ領域U__AREAへの書込み・消去は、通話履歴データの場合と同様に行われる。

【0028】なお、ユーザは通話履歴データTC__HIS、およびメール送受信履歴データML__HISの、メモリ111のユーザ領域U__AREAへの格納可能数を変更することもできる。

【0029】さらに、処理装置11は、履歴監視手段により通話履歴データTC__HIS、およびメール送受信履歴データML__HISのメモリ111のユーザ領域U__AREAへの書込み・消去回数を監視する。履歴監視手段は、CPU114およびメモリ111から構成される。

【0030】履歴監視手段は、通話履歴データTC__HISの、メモリ111のユーザ領域U__AREAへの書込み・消去回数のカウントを行う（f__3）。メモリ111のシステム領域S__AREAには、通話履歴データ書込み・消去回数値TCHIS__C__VALが格納されており、携帯型電話機1の購入時の初期設定値は0である。CPU114は、通話履歴データTC__HISの、メモリ111のユーザ領域U__AREAへの書込み・消去（f__1）が行われる毎に、通話履歴データ書込み・消去回数値TCHIS__C__VALを内蔵レジスタに読み込む。そして、CPU114は、内蔵レジスタに読み込まれた通話履歴データ書込み・消去回数値TCHIS__C__VALに1を加算し、その値を最新通話履歴データ書込み・消去回数値としてメモリ111のシステム領域S__AREAに格納する。

【0031】また、履歴監視手段は、メール送受信履歴データML__HISのメモリ111の、ユーザ領域U__AREAへの書込み・消去回数のカウントも、通話履歴データTC__HISの場合と同様に行う（f__2）。CPU114によってカウントされたメール送受信履歴データ書込み・消去回数値MLHIS__C__DATは、メモリ111のシステム領域S__AREAに最新メール送受信履歴データ書込み・消去回数値として格納される。

【0032】さらに、履歴監視手段は、通話履歴データTC__HIS、およびメール送受信履歴データML__HISの、メモリ111のユーザ領域U__AREAへの書込み・消去回数の集計を行う（f__5）。CPU114は、通話履歴データ書込み・消去回数値TCHIS__C__DATと、メール送受信履歴データ書込み・消去回数値MLHIS__C__DATとの値を合計し、その合計値であるカウント集計値CNT__SUMを、メモリ111のシステム領域S__AREAに格納する。

【0033】さらにまた、履歴監視手段は、カウント集計値CNT__SUMとアップロード条件値ULCDN__VALとの比較を行う（f__6）。アップロード条件値ULCDN__VALは、メモリ111のシステム領域S

__AREAに格納されており、帯型電話機1の購入当時は初期設定値が設定されているが、ユーザは設定値を変更することができる。CPU114は、カウント集計値CNT_SUMとアップロード条件値ULCDN_VALとを内蔵レジスタに読込み、双方の値の比較を行う。当該比較の結果、カウント集計値CNT_SUMがアップロード条件値ULCDN_VAL以上の場合に、処理装置11は、転送手段（通信回路112、CPU114、およびアンテナ12から構成される）により、ユーザデータUSR_DATのサービス局2へのアップロードを行う（f_7）。

【0034】ユーザデータUSR_DATのサービス局2へのアップロード（f_7）において、CPU114は、ユーザデータUSR_DATを通信回路112へ渡す。通信回路112は、CPU114から渡されたユーザデータUSR_DATを、アンテナ12から送信する。送信されたユーザデータUSR_DATは、通信網3を介しサービス局2のアンテナ23により受信され、処理装置21によりハードディスク22にバックアップデータBU_DATとして格納される。

【0035】アップロードが完了すると、処理装置11は、履歴監視手段のリセットを行う（f_8）。履歴監視手段のリセットにおいて、CPU114は、通話履歴データ書き込み・消去回数値TCHIS_C_DAT、およびメール送受信履歴データ書き込み・消去回数値MLHIS_C_DATの値を0にする。

【0036】図4は、携帯型電話機1に内蔵された処理装置11が、ユーザデータUSR_DATのサービス局からの転送（以下、「ダウンロード」という）を行う際の動作を説明するための機能ブロックである。

【0037】処理装置11は、ユーザからのダウンロード要求の受付けを行う（f_9）。ダウンロード要求の受付けにおいて、CPU114は、ユーザの操作手段（例えば操作ボタン）によるダウンロード実行操作を監視する。CPU114は、ユーザのダウンロード実行操作が行われると、ダウンロード要求信号DL_REQを検知する。そして、処理装置11は、サービス局2からのバックアップデータBU_DATのダウンロードを実行する（f_10）。ダウンロード要求信号DL_REQは、処理装置11によりアンテナ12から送信され、通信網3を介してサービス局2のアンテナ23により受信される。アンテナ23がダウンロード要求信号DL_REQを受信すると、処理装置21は、ハードディスク22に格納されたバックアップデータBU_DATをアンテナ23から送信する。アンテナ23から送信されたバックアップデータBU_DATは、通信網3を介して携帯型電話機1のアンテナ12により受信される。受信されたバックアップデータBU_DATは処理装置11によりメモリ111のユーザ領域U__AREAに格納され、ユーザデータUSR_DATは、バックアップデー

タBU_DATに書き換えられる。書き換えが完了すると、CPU114は、携帯型電話機1の図示しない表示部（例えば液晶ディスプレイ）に、ダウンロードの完了メッセージを表示する（f_11）。

【0038】以上述べたように、上記の実施形態では、携帯型電話機1は、カウント集計値がアップロード条件値ULCDN_VAL以上の場合に、ユーザデータUSR_DATのサービス局2へのアップロードを自動的に行う。また、携帯型電話機1は、ユーザからのダウンロード要求に応じて、バックアップデータBU_DATをサービス局2からダウンロードする。

【0039】次に、本実施形態における通話情報バックアップシステムの動作例を説明する。

【0040】メモリ111のシステム領域S__AREAには、アップロードパスワードUPLD_PW、およびダウンロードパスワードDNLD_PWが格納されている。

【0041】処理装置11は、ユーザデータUSR_DATの、サービス局2へのアップロードの際に、アップロードパスワードUPLD_PWを併せてアンテナ12から送信する。送信されたアップロードパスワードUPLD_PWは、サービス局2のアンテナ23により受信され、処理装置21によりハードディスク22に格納される。

【0042】また、処理装置11は、バックアップデータBU_DATのサービス局2からのダウンロードの際に、ダウンロード要求信号DL_REQとともに、ダウンロードパスワードDNLD_PWをサービス局2へ送信する。

【0043】図5は、サービス局2が、携帯型電話機1からユーザデータUSR_DATのダウンロード要求を受けた際の、処理装置21の動作を説明するための機能ブロックである。

【0044】CPU211は、アンテナ23が受信したダウンロード要求信号DL_REQを検知する（f_20）と、次にダウンロードパスワードDNLD_PWを取得し（f_21）、メモリ213に格納する。そして、CPU211は、メモリ213に格納されたダウンロードパスワードDNLD_PWと、ハードディスク22に格納されたアップロードパスワードUPLD_PWとの比較を行い、ダウンロードパスワードDNLD_PWの正当性を判断する（f_22）。当該比較の結果、CPU211は、両者が一致した場合に、ダウンロードパスワードDNLD_PWは正当であると判断する。ダウンロードパスワードDNLD_PWが正当なものである場合、処理装置21は、バックアップデータBU_DATをアンテナ23から送信する（f_23）。ダウンロードパスワードDNLD_PWが正当なものでない場合、処理装置21は、バックアップデータBU_DATの送信を行わない。

【0045】また、ユーザはバックアップデータBU__DATのサービス局2からのダウンロードを、ユーザデータUSR__DATのアップロードを行った携帯型電話機と異なる携帯型電話機を使用して行うことができる。

【0046】図1において、サービス局2のハードディスク22には、携帯型電話機1のユーザデータUSR__DATのアップロードにおける、バックアップデータBU__DAT、およびアップロードパスワードUPLD__PWが格納されている。

【0047】携帯型電話機1nは、サービス局2からのバックアップデータBU__DATのダウンロードを行う際、ダウンロードパスワードDNLD__PWを送信する。送信されたダウンロードパスワードDNLD__PWは、サービス局2によりアップロードパスワードUPLD__PWと比較される。当該比較の結果、アップロードパスワードUPLD__PWと、ダウンロードパスワードDNLD__PWとが一致した場合、サービス局2は、携帯型電話機1nから送信されたダウンロードパスワードDNLD__PWの正当性を認める。そして、サービス局2は、バックアップデータBU__DATを送信し、バックアップデータBU__DATは携帯型電話機1nによりダウンロードされる。ダウンロードされたバックアップデータBU__DATは、携帯型電話機1nのメモリ（図示しない）のユーザ領域U__AREAに格納される。

【0048】以上述べたように、上記のでは、サービス局2は、アップロードパスワードUPLD__PWと、ダウンロードパスワードDNLD__PWとが一致した場合に、携帯型電話機1にダウンロードを許可する。

【0049】また、携帯型電話機1がアップロードを行い、サービス局に2格納されたバックアップデータBU__DATを、携帯型電話機1nがダウンロードすることができる。もちろん、携帯型電話機1と携帯型電話機1nとは、異なるメーカーの物であっても構わない。

【0050】

【発明の効果】本発明によれば、携帯型電話機の内蔵メ

モリに登録されたユーザ情報のバックアップが自動的に行われるので、ユーザ情報を確実にバックアップすることができる。

【0051】また、本発明によれば、アップロードした携帯型電話機と異なる携帯型電話機にバックアップデータの転送ができるので、携帯型電話機が紛失したり、突発的な故障が生じた場合でも、ユーザはユーザ情報を確実に回復することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の携帯型電話機、および通話情報バックアップシステムの実施形態を示す説明図である。

【図2】携帯型電話機に備えられたメモリに格納された情報を示す説明図である。

【図3】携帯型電話機の内蔵処理装置が、ユーザ情報のサービス局へのアップロードを行う際の動作を説明するための機能ブロックである。

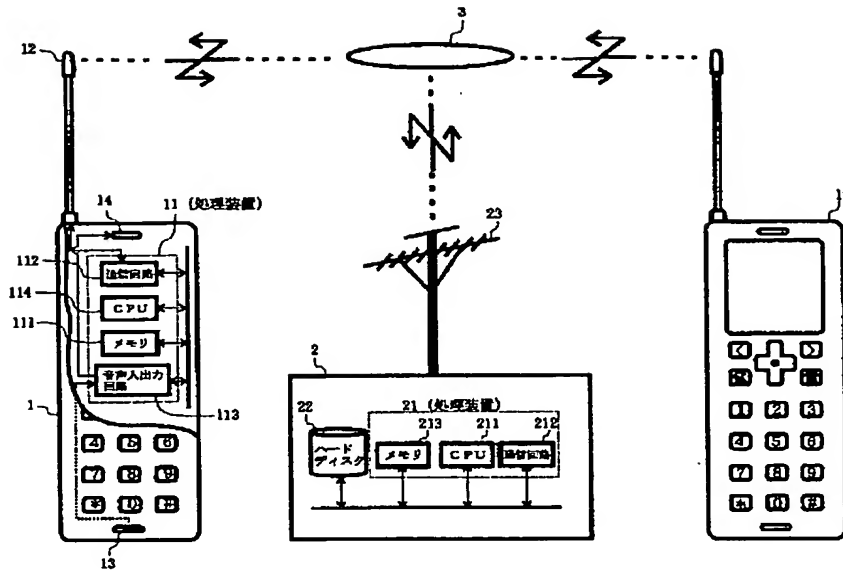
【図4】携帯型電話機の内蔵処理装置が、メモリに格納されたユーザ情報の、サービス局からのダウンロードを行う際の動作を説明するための機能ブロックである。

【図5】携帯型電話機からバックアップデータのダウンロード要求を受けた際の、サービス局の内蔵処理装置の動作を説明するための機能ブロックである。

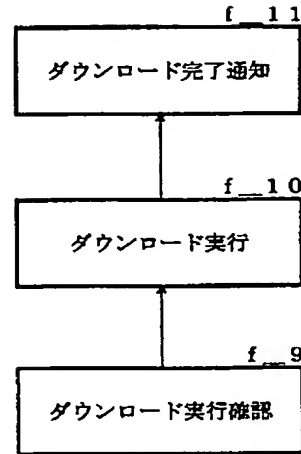
【符号の説明】

- 1, 1n 携帯型電話機
- 2 サービス局
- 3 通信網
- 11, 21 処理装置
- 12, 23 アンテナ
- 13 マイク
- 14 スピーカ
- 22 ハードディスク
- 111, 213 メモリ
- 112, 212 通信回路
- 113 音声入出力回路
- 114, 211 CPU

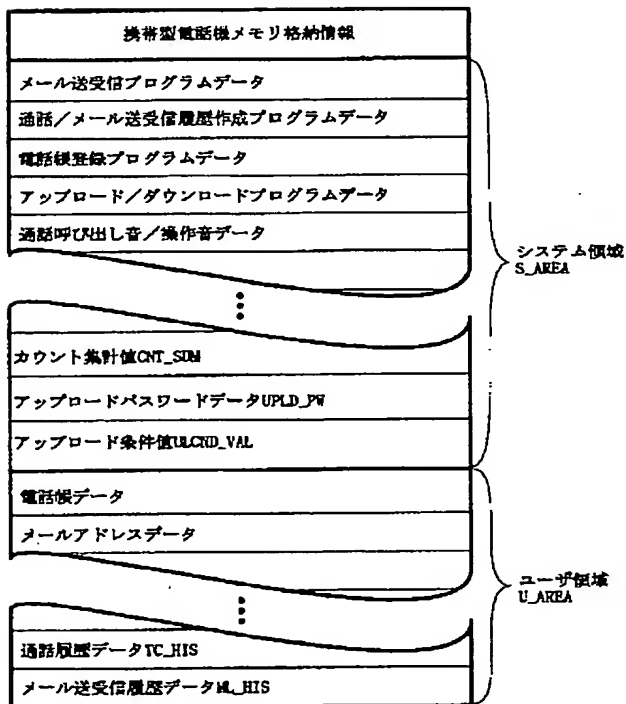
【図 1】



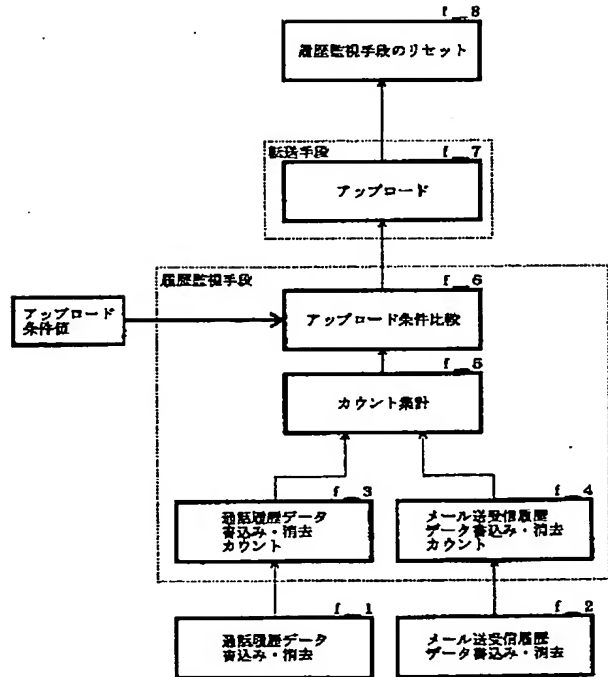
【図 4】



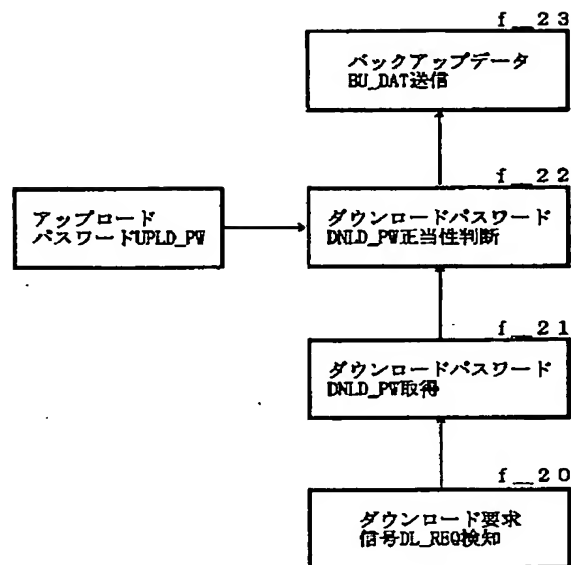
【図 2】



【図 3】



【図5】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード(参考)
H 0 4 M 1/725		H 0 4 M 11/00	3 0 2 5 K 1 0 1
11/00	3 0 2	H 0 4 B 7/26	1 0 9 M

F ターム(参考)

5B017	AA03	BA05	CA16
5B018	GA04	HA03	KA22 QA20
5B082	DE06		
5K027	AA11	BB01	BB04 CC08 EE04
	HH00		
5K067	AA34	BB04	DD17 DD51 EE02
	EE16	FF02	HH17 HH23 HH24
	KK13	KK15	
5K101	KK02	KK20	LL12 MM07 NN21
	PP05	RR12	RR27 SS07 TT04
	TT06	VV00	